

# 地域おこし協力隊

## 奮闘記 Vol.21

### 「のまど間の取り組み」



今月は  
小谷英介が  
書いています

#### 注目を集める、田舎暮らし 入門住宅「のまど間」

オープンして10か月。この間、町外から来た10名程度の若者がのまど間で生活をしました。近所の方々からいただいた野菜は数知れず、集落をはじめ町内の方との交流を通じて地域を知る機会に恵まれました。

若い移住者を地域に呼び込む工夫が全国各地で行われていますが、その中でも斬新な取り組みとして、全国誌「田舎暮らしの本」に取り上げられるなど、注目度や評価が上がってきていることを実感しています。

#### 新たな取り組み

##### ゆえの難しさ

のまど間が運営できているのは、集落の方々の理解や支えによるところがとても大きいのです。のまど間の取り組みそのものも全国的に珍しい事例です。ということは、地域の人にとって馴染みがあるはずもありません。「得体の知れないものができた」と思う方がいて当然だと思います。戸惑いや反発の声も少なからずあったのも事実です。

のまど間には、一般家庭と同じように居住者の友人の来訪もありますし、田舎暮らしに興味ある人をホームステイで短期間受け入れたりもします。その結果、「最近、見知らぬ人が近所を歩いている。どうなっているの?」と苦情が届いたことが何度かありました。門前集落にはお店もなく、見知らぬ人が集落内を歩き回れば違和感や警戒心を抱くのはごく自然なことかもしれません。

私たちも、新たに住人が増える際には回覧でお知らせするようにしています。ですが、知人や数日間のホームステイのお客さんが来るたびに回覧を回していたのではキリがありません。これには、私もどう対応したものか困ってしまいました。



▲のまど間 (門前)

しかし、門前集落が素晴らしいのは、このようなときに冷静に間に入ってくたさる方がいるところだと思います。「実際に何か害があるわけでもないし、君たちは悪いことをしているわけじゃない。理解してもらおうために時間をかけてコミュニケーションを増やしていけばいいよ」と応援してくださいます。今後も、集落間の取り組みを紹介していきたいです。

#### ホームステイを

##### 受け入れる意義

のまど間では長期の住人以外に、数日間のホームステイも受け入れています。背景として、大山町のような田舎の生活に興味を持つ人の増加があります。いきなり移住は難しくても、まずは体験して地域の人と交流してみたい、その経験を知り合いにも伝えたいと考える人がいます。のまど間では、そのような希望者の中から、まじめに地域交流をしてくれる方を選び、ホームステイを受け入れていきます。これには2つの意味があります。



▲ケニア料理を食べながら文化を紹介

1つは、ホームステイの経験を通じて将来的な移住につながる可能性があること。2つ目は、外の人と交流することで、地域の人にとってプラスがあるかもしれないということです。

昨年、12月にケニア出身のフィリップさんがのまど間にホームステイ。滞在中、地域の方々と交流を深めました。鳥取県で就農を希望しているフィリップさんに寄稿してもらいましたので、合わせてページもお読みください。今後、国内外から大山町へホームステイを希望する方は増えると思います。見かけても、不審に思ったりせず、積極的に交流を図ってもらえればと思います。